

発行人 今村久美子

編集人 土屋和子

〒191-0041日野市南平2-56-10 <http://www.angel-hino.com/>

Tel&Fax 042-583-1528

特定非営利活動法人市民サポートセンター日野 / 郵便振替番号 00180-0-612689

Link

Linkは、わたしたちのNPOが市民と市民、市民と行政、市民と事業者、市民と学校、子どもと大人といった様々な人たちをリンク(Link:つなぐ)することを、そして心と心をつなぐことを目指しています

一人ひとりちがう人間に 対応できる力をつけたい

副理事長
早川裕子

殊のほか厳しくて長かった今年の夏、みなさまいかがお過ごしでしたでしょうか？

このNPOも7年目に入り、活動内容に専門性が問われるようになってきたことを痛感する昨今です。ご高齢の方々や、お子さまたちの見守りやお世話をする際に、一人ひとりのお気持ちにできるだけ近く寄り添って、安心して任せていただけるように、知識や認識を少しでも深めていけたらと思っています。

3年ほど前から始めた「そだちあい」事業では、特別な配慮の必要な子どもたちをどう導いていくか、関係者の方々それぞれの立場で知恵をしぼり、話し合いを重ねて、市民の子育ての悩みに応える努力を続けております。

同じころスタートした「0歳児ステーションおむすび」では、多彩な活動を展開しながら、目の離せない赤ちゃんとは格闘するお母さんたちに役立つよう、奮闘を重ねております。

こうしてつけられたスタッフたちの“力”は、NPOの会員さんをはじめ市民の方々に伝えられて、大げさな言葉で一人ひとり違う人間に合った対応ができる力を、当NPOが持つことができる日につながっていくのだと信じております。

みなさま一人ひとりが、より深く、きめの細かい活動をめざして力を尽くしてくださるのを願い、応援しております。どうかよろしく願いいたします。

人と人、人と地域を結ぶまちづくり

理事・事務局長 土屋和子

昨年4月から『ひのママのらくらく子育て応援マップ』を、生活保健センター3.4か月健診会場に訪れたお母さんたちに配布しています。このマップは、0歳児を持つお母さんの「外に出るきっかけづくり」を目的として「日野市一時保育0歳児ステーションおむすび」に子どもを預けたお母さん、おむすび親育ち講座に参加したお母さんが特派員になって制作したもので、2年間で3000部を日野市の若い保護者にお届けすることになります。

このマップは表面を若いお母さんたちの感性で集めた子育て情報満載の「子育て応援マップ」、裏面は日野市産業振興課の協力を得て、子育て中の保護者と商店会を結びつける「子育て応援お店ガイド」として作りました。商店会にはマップを持参した方への特典サービスを用意していただき、2年間マップを持参すれば必ず特典が受けられます。

なぜ、商店会ガイドを作りこのような特典を用意していただいたのでしょうか。

子育てを社会全体で行う方向に向かっている今、子育て支援は概して行政や市民団体が中心となりがちで当事者の保護者には伝わるものの、子育てを終えた世代や商店会などには伝わりにくいのが現状です。高幡不動駅周辺は東京の観光名所でもあり人の行き来は多いところですが、若い市民の行き来は少ないようです。そこで商店

会情報をお知らせし、さらに特典サービスが受けられる仕組みを作ることによって高幡駅付近商店会への若い市民の来訪を促そうと考えました。来訪した時に困らないよう、トイレの貸出、授乳の場の提供なども商店会にお願いしました。

配布して1年になりますが商店会では好評で、「マップをきっかけに会話がはずんだ、このように店が子育て支援に協力することによって子育て支援が広まっていくとよい」などの声をいただき、利用したお母さんたちからも「知らなかったお店の情報が得られた、商店会が身近なものになった、子連れでもお店に入りやすくなった、商店街に繰り返し行ってみたい」などの声がありました。子育てマップ、お店ガイドという情報紙を配布することが、情報を共有し活用するだけでなく、今まで出会わなかった人が会おうきっかけとなったことが分かります。

当NPOでは、昨年度の自主事業としてふれあいべんり帖を制作し無料配布しています。これも、サークルの情報提供により「人と人、地域と人を結ぼう」という試みです。ファミサポ、そだちあい、おむすびも人と人、人と地域を結んでいます。これからもさらに、「人と人、人と地域を結ぶまちづくり」をNPOの活動の柱にしていきたいと考えています。

ご支援ご協力をお願いいたします。

～つながり、支えられて7年～



更なる発展を期待して



前日野市副市長
日野市立病院経営専門監
河内久男 様

世の中に理想的なものと言うものは中々なくて、特に不特定多数のものからお互いに必要でもチョイスされて結びつくシステムは「言うは易し、行うは難し」と思います。このことを子育て、介護の世界で実現していたのが日野市女性社会事業協会でした。国や東京

都が言い出す前、今から約15年前から女性の社会進出を促進するため日野市内で設立されていたことを誇りと思います。

以後8年前頃から馬場市長が単なる任意団体でなく、NPO法人化して公の仕事も正式に受けることがこの団体の持続性が高まり、市民も安心するのではと言う考えに、当時協会の役員の皆様も全く同感と思い奮戦努力し、NPO法人市民サポートセンター日野が設立されました。日野市が設立に応援して出来た、所謂少し官製の匂いのするNPO法人です。それ以降市の応援するNPO法人が3～4設立されたことにも意義があります。

市民サポートセンター日野は、人材の豊富さとレベルの高い人材を育て、集めていることに高い評価が出来ます。市民のニーズに合ったもの、社会が求めていることをするには人材なくして出来ないことと思います。

これからも、日野市内に活動の拠点があること、日野市民のより多くの参画を求めつつ、日野市政の一翼を担っているプライドを持って活動されることを祈っております。

むすびに、発足当時も今も、NPO法人に変わらぬ協力をいただいている子育て関係者、保育園の方々、庁内各部門の職員の皆様方、基本的理念を構築していただいた皆様、市民サポートセンター日野を愛している皆様に改めて感謝すると共に、これからも変わらぬご支援をよろしくお願いします。

つながりを大切に、活躍に期待



元日野市企画部長
日野市企業公社社長
堀之内和信 様

私が、NPO法人市民サポートセンター日野と、お付き合いを頂いてから約7年になります。最初のきっかけは日野市女性社会事業協会から、NPO法人へ移行され新たな拠点をどうするのか検討される中で、建設される多摩平の森ふれあい館へ移転する計画が進み、前事務局長の下重さん、多摩平自治会の笹原さん達と拠点づくりの話をしたのが最初の出会いです。

いろいろと議論はありましたが、多摩平の森ふれあい館を拠点として、子育て、高齢者支援等の活動を行うことになりました。

これらの話合いも例えば殆ど計画が固まりつつあるのに、下重さんがゆっくりできるスペースがほしい、法人で運営するからと言われ急ぎょ調理室を一部カットして、今のコミュニティカフェに計画を変更したり、また、事業の拡大を図る上で高幡地区に拠点をということで高幡福祉センターのボイラー室を改造して、おむすびの事業につなげたり、今考えればどうなのかと反省しつつも、いろんな人達と自由に議論をしながら具体的に進められたことが、本当に楽しかったという思いがあります。

是非、これからも人とのつながりを大切にされて、日野市と連携しながら日野市民のために市民サポートセンター日野が、ますます充実し多方面で、ご活躍されることを期待しています。

市民サポートセンター日野と私



元日野市総務部長
日野市福祉事業団理事長
櫻村正男 様

市民サポートセンター日野は、NPO法人として設立から既に7年目を迎えておりますが、思い起こすと、現センターの前身である日野市女性社会事業協会が発足し、市民の相互援助の活動の在り方等を模索していた頃、当時行政で児童福祉を担当していた私は、個別化、複雑化するニーズに対応するためのパートナーとして、現今村理事長を始め協会員の皆様に希求な課題に積極的に取り組んでいただき、市民の要望

に応えていただいたことを今更のように思い出します。

現在、同センターでは市民の相互援助活動と共に、子どもの健全育成、生涯学習の推進、技能の習得など、生活の質の向上に向けた諸活動が展開され、会員数も提供会員、依頼会員合わせて5500人を超える規模となっておりますが、これは発足当時から理念に裏付けられた的確な事業目標を市民主体で実践してきた結果だと思えます。

通信紙「LINK」にも市民から寄せられる声が多々紹介されておりますが、今後も「市民がともに支えあうまち」を目指して更に頑張っていたいただければと願っております。

市民サポートセンター日野は、日野市女性社会事業協会を前身とし7年前にNPO法人となり、以来、日野市よりの受託事業を中心に様々な事業を行ってまいりました。設立当初は、ファミリー・サポート・センター事業、新選組のふるさと歴史館案内業務、多摩平の森ふれあい館総合受付、コミュニティカフェ事業の4事業でしたが、おかげさまで平成22年度は12の事業を行うまでとなりました。LINK16号では設立当初から現在に至るまで支援していただいていた皆さまから原稿を寄せていただきました。

社会全体で考える子育て支援の にないとして



日野市子ども部長
高田明彦 様

子育て世代の方たちに育児や家事等の支援を行なう「ファミリーサポートセンター事業」、保育園や学童クラブの気になるお子さんたちの育ちを支援する「子ども支援事業そだちあい」、更に月齢3カ月以上の乳児を対象に一時保育を行う「0歳児ステーションおむすび」。市民サポートセンター日野の方たちには、いずれも「子育てしやすいまち日野」に欠かすことのできない大切な仕事をお願いし

ています。

「介護の社会化」に加え、近年は「子育ての社会化」が、時代の新たなテーマとなってきました。かつては、ともに家族の中の問題とされていた「介護」と「子育て」が、広く社会全体で考え、支えていくべき課題となっているわけです。打ち出の小槌が手元にあるわけではなく、今後も財政的制約はついてまわりますが、引き続き市民サポートセンター日野の方たちと連携し、相互に工夫を凝らしながら、あるべき子育て支援の仕組みづくりに努めていきたいと考えています。

今後の NPO に期待すること



日野市健康福祉部長
大坪冬彦 様

福祉サービスの供給が措置から契約に転換され、特に介護保険を中心に株式会社等多様なサービス提供主体の参入がなされました。利用者がサービス提供主体を選択でき、サービスの質を担保するための第三者評価も行われるようになっていきます。

しかし、ビジネスとしての福祉を目指す民間企業の提供サービスの質はピンからきりです。こんなときに、行政とは対等の立場で市民の目線で市民活動としてサービス提供に努めてきたNPOの役割は絶大です。

今、行政サービスについて、民間活力の導入・業務の外注化がよく語られていますが、行政からのサービス受託者には、安かろう悪かろうではなく市民が主役の視点を持つ事業者であることが求められています。そういった意味でNPOが持つ行政にはない高い専門性・機動力・柔軟な発想・意識の高い人材等に期待したいと思います。

NPO法施行以来たくさんのNPOが誕生していますが、粗製濫造にならぬことを祈りますし、NPOを担う職員の待遇も手弁当の世界から職として成り立つ制度への脱皮も必要ではないでしょうか。日野市が掲げる公民協働にふさわしい相手方としてさらなる発展を期待します。

建て替えと一緒にNPO活動



多摩平の森自治会長
笹原武志 様

日野市・都市機構・自治会の三者による「建て替え三者勉強会」が始まったのが平成8年でした。以来14年、三者勉強会は114回を数え続行中です。

平成16年3月、試行錯誤を重ねた結果、日野市の公共施設「多摩平の森・ふれあい館」が完成しました。まちづくりに必要だからと三者が譲り合って作り上げたものです。ここにNPO法人市民サポートセンター日

野が受託する「日野市ファミリー・サポート・センター」の事務局が移ってきて、市民主体の活動が多摩平の森に根付くことができました。

近所に住む住民として多摩平の森から「カフェ・グリーン」・「総合受付」のスタッフの一員を担わせていただきました。図書館、児童館など多くの市民でにぎわうふれあい館を見るにつけ、近隣との連携の大切さを感じます。まちづくりはいよいよ駅前ゾーンの商業地づくりに取りかかっています。50年後を見据えた確かなまちづくりを目指し志を高く持って臨みたいと思います。

日野市から 巣立って7年、 励んでいます

理事長
今村久美子

今、夏の暑さの中でこの原稿を書き始めていますと、7年前の夏が思い出されて来ます。

2003年の夏、「日野市女性社会事業協会」の理事達は、日野市が設立したこの事業協会をNPO法人に移行するための作業に、汗を拭き拭き動き回っていました。

2度にわたる市民説明会、他市の先輩NPOへの数度の訪問、定款づくり等々のための数十回に及ぶ会議など、未知の世界への旅支度に追われていました。

その様な中で、当時の副市長をはじめ日野市の関係職員の方々からは限りなく多くのご支援を頂きました。そして今も変わらずお力添えを頂いております。また新たに多くの職員の方々や、様々な分野の皆様から多大なご理解とご支援を頂いております。

「市民サポートセンター日野」は、日野市が設立した第一号のNPOである事の責任と誇りを持ち、それに恥じない仕事に向けて日々励んでいます。感謝の気持ちを忘れる事なく。

～地域とつながるNPO～



市民サポートセンター日野は、日野市に根差し地域と密につながり、地域にお返しできるような活動を目指しています。社会福祉法人とのつながりや地域のお祭りへの参加、市民活動等をとおり、地域貢献できるよう活動しています。

来館者増の一端は NPOの皆さんのおかげ



日野市立新選組の
ふるさと歴史館館長
関田和男 様

4月より館長に就いております関田です。最近の幕末・維新ブームの影響も受け、いろいろな歴史書、旅行雑誌そしてコミックまんが等にも多数紹介され、ここで来館者が急増しているという事の驚き、そして、このすばらしい日野の宝物をますますまちづくりに生かさなければと思っているところです。

今歴史館ではコスプレが大人気となっており雑誌にも紹介されていますが、来館者のアンケートには、受付の

方々がとても親切に、その着付けや写真撮影のお手伝いをしてくださることに対するお礼のコメントが多数記載されています。来館者増の一端はこの受付業務をお願いしているNPOの皆さんのお陰ではとも思っております。一年中で一番来館者が多い5月の新選組まつりでは、賑やかしのため、また来館者の休息の場として、全員集合でいろいろな店舗を出店していただき感謝しております。あの明るく元気な、そしてにぎやかな掛け声により、おもてなしの「新選組のふるさと歴史館」としてさらに発展しますよう、よろしく願いいたします。

焼きたてのパンをカフェ・グリーンで

(社福) あおいとり日野 施設長
村瀬節子 様

パン工房から毎朝焼きたてのパンをピンクの移動販売車でお届けしています。

昨年10月からカフェ・グリーンさんで販売させて頂き「カフェ・グリーンさんで食べておいしかった！」と豊田駅北口『パンの店』にご来店下さる方など、新たな繋がりが生まれ感謝しております。

これからも“地域との出会いを大切に、美味しいパンを誠実に提供する”ことを柱に進めてまいります。

どうぞ、宜しくお願い致します。



市民サポートセンター日野 2009年度決算と2010年度事業計画について

特定非営利活動法人市民サポートセンター日野
理事長 **今村久美子**

2010年5月29日(土) 特定非営利活動法人市民サポートセンター日野 2010年度第1回理事会が9時半より開催されました。また、引き続き11時より総会が開催され、2009年度事業報告及び決算報告、2010年度事業計画案、予算案について、理事会、総会にて満場一致を持って承認されたことをご報告いたします。

2009年度決算書、2010年度事業計画書および、予算書につきましては、事務局にて開示しております。お手数ですが閲覧希望の方は、予めご連絡の上、事務局までお越しいただければ幸いです。

今年度実施事業については以下の通りです

受託事業

<継続>

日野市ファミリー・サポート・センター育児支援業務委託
日野市ファミリー・サポート・センター家事等支援業務委託
育児家事支援業務委託
新選組のふるさと歴史館観光案内等業務委託
福祉支援センター0歳児一時保育業務委託

子ども支援事業「そだちあい」子ども支援事業業務委託
福祉支援センターひとり親家庭等求職活動支援0歳児一時保育事業業務委託

<新規>

子ども支援事業「そだちあい」保育サポート体制強化推進事業委託

協定

日野市立多摩平交流センター指定管理者
日野市ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業

自主事業

コミュニティカフェ・カフェグリーン
日野市立多摩平交流センター指定管理者自主事業(紅茶講座)
おむすびころりん知恵袋の制作・発行(0歳児ステーションおむすび)

地域貢献事業

ひの市民活動団体連絡会
新選組まつり出店

その他

新年交流会

編集後記

今年度NPOは「学ぶ」をテーマに、外部研修への出席、他団体の見学など、積極的に出かけております。今年度学んだことを次年度以降の事業に生かすべく、皆張り切っています。(M)



2010年度NPO会員募集

NPOが活発な展開をするためには、NPOの趣旨に賛同し、活動を支援して下さる皆様のサポートなしには成り立ちません。ぜひ、会員の輪を広げるためにご協力をお願いします。

また、寄付も随時受け付けております。

- ◆一般会員(活動に参加して下さるひと) 1,000円 ◆賛助会員(活動を支援して下さるひと) 3,000円
 - ◆法人会員(活動を支援して下さる法人) 30,000円 ◆運営会員(運営に積極的にいかかわるひと) 10,000円
 - ◆入会金(一般会員、運営会員のみ1,000円)
- 会員特典 年3回の会報をお届けし、主催講座やイベント等にご優待します。

